

第 4 回 那須塩原市廃棄物減量等推進審議会議事要旨	
日 時	令和 4 年 12 月 12 日（月） 13:30～14:45
場 所	那須塩原市役所 2F 202 会議室
出席状況	18 名中 12 名出席：過半数の出席者により会議成立 （那須塩原市廃棄物減量等推進審議会条例第 6 条第 2 項） 委 員：陣内会長、橋本副会長含め 出席委員：12 名 欠席委員：6 名 事務局：市民生活部長、廃棄物対策課長、補佐、係長、主査、主事、委託業者 3 名 計 9 名
議 事	《開会》 《挨拶》 《審議事項》 （１）第 2 期那須塩原市一般廃棄物処理基本計画（案）について （審議資料 1－1、1－2、1－3） （２）諮問への答申について（審議資料 2） （３）その他 《その他》 第 2 期那須塩原市一般廃棄物処理基本計画策定スケジュールについて（その他資料 1） 《閉会》
議事の概要	《開会》 事務局より審議会成立の報告と注意事項等の連絡があった。 《挨拶》 陣内会長より挨拶があった。 《審議事項》 （１）第 2 期那須塩原市一般廃棄物処理基本計画（案）について （審議資料 1－1、1－2、1－3）により事務局説明。 [事務局] ・2022 年 11 月 4 日から 12 月 5 日まで実施したパブリックコメントについて、正式な意見は 0 件であった。その他、パブリックコメントの要件を満たしていないが、ごみに関する意見が 3 件あったため、参考意見として紹介する。 ・基本計画表紙の数値変動についての文言は削除した。 ・P48 目標値設定において現状維持という文言を多用していたため、表記を前向きな表現に修正した。 ・P49 家庭系ごみは「家庭から出るごみについて」、事業系ごみは「事業に伴って出るごみについて」と軟らかい表現に修正した。原単位の補足説明も追記した。 ・P55 第 3 回審議会より委員の意見を受け、生ごみの堆肥化の推進の項目を、資源化の推進に修正し、バイオマス資源としての活用の可能性について追記した。 ・P62 災害時、廃棄物処理に支障が生じる場合は仮設の処理施設等を設置することとなるが、栃木県より、本計画にその旨の記載があれば届出を出すことで対応可能となり手続きがスムーズになると指導を受けたことから、その文言を追記した。 ・概要版は市民の多くの方が見られることを想定し、より分かりやすい表現に修正し、身近にごみの減量化に取り組めるような内容とした。 （委 員） ・概要版の 6.基本方針と基本施策にデジタル技術などの活用とあるが、具体的にはどのようなものか。 [事務局] ・ごみステーション管理に用いる住宅地図について、紙面ではなく電子データで管理することを検討したい。様々なデータと抱き合わせて管理が行えるため、適切なごみステーションの状況把握や、業務の効率化につながると考えている。

(委 員)

- ・ごみステーション管理のためのデータ活用のメリットは市民か、それとも行政か。

[事務局]

- ・ひとつは事務的作業が削減されることによる行政にとってのメリット、もうひとつはごみ減量推進員の方々のごみステーション調査の際、デジタル技術を用いて地図が配布可能となり市民にとってのメリットとなる。

(委 員)

- ・一般廃棄物処理基本計画において、ごみ減量や地球温暖化への施策を掲げる中、ごみ減量推進員の方々のごみステーション管理にデジタル技術を用いることは吹き出しで記載するほど市民にとって重要な問題であるのか。
- ・転入時はごみステーション管理責任者から、ごみステーションの場所や利用条件を伺うことから始まる、face to face の地域づくりができると考えている。転入時に初めに必要となるのはごみステーションであるため、事務の簡素化がすべてではない点、御理解いただきたい。

(委 員)

- ・P55 生ごみの資源化の推進については、バイオマス資源としての活用の可能性について追記されたことで一歩前進したと感じている。市民の方々がどのように感じるかはわからないが、僅か 3 行の追記であるが、行間にバイオマス発電や二酸化炭素排出の削減に繋がる意向が読み取れるため、この記載について評価する。
- ・令和 14 年度の 1 人 1 日当たりの家庭系ごみ排出量の目標値は 458g/人・日とあるが、家庭系ごみは厨芥類が多く占めていること、前回の審議会で提示した生ごみ量のデータによると 1 人 1 日当たり約 200g の生ごみが排出されていたこと等から、生ごみ問題の解決をなくして、目標達成は困難と考える。
- ・愛知県豊橋市は先駆的にバイオマス発電に取り組んでおり、可燃ごみは週 2 回、生ごみも別で週 2 回の収集としている。那須塩原市のごみ袋はごみ処理手数料等を上乗せしているため価格が高いことについては十分承知しているが、豊橋市は販売価格を定めず、市場価格(1 枚約 5 円)とし、市指定のごみ袋を販売していることには驚いた。
- ・市会議員、事務局で豊橋市のバイオマス発電施設を視察してみてもどうか。

(委 員)

- ・ごみ袋を安くするのは良いことではあるが、安いことでごみをたくさん排出されては困る。全国的なごみ袋の価格はどうなっているのか。

[事務局]

- ・ごみ処理手数料としての位置づけのごみ袋は全国的には高いところはたくさんある。県内では那須塩原市のごみ袋の金額は、高い水準にある。しかし、クリーンセンターへの持ち込みごみに関しては、処理手数料が 10kg150 円であり、県内では低い水準にある。一方、都市部等、ごみ処理施設を確保できない地域は、外部に委託していることから、比較的高い水準にあるのではないかと。国の方針もあり、ごみの排出量抑制、適切な分別促進、受益者負担を実現するため、ごみ処理有料化は継続しながらも、金額については状況に応じて適宜、見直しを検討することとしたい。

(委 員)

- ・パブリックコメントについて、今回意見提出が 0 件ということだが、私もパブリックコメントのページを拝見したが、意見提出へのハードルが高いと感じた。情報の出し方、手続き等が非常に難解である。パブリックコメントについて、もっと気軽に意見が提出できるよう、情報の出し方、回答の手続き等、見直すべきではないか。

[事務局]

- ・パブリックコメントの手続きについては庁内で定めがあり、また政策的な観点で意見をいただくため、計画全体を公表している。気軽に提出できる意見としては、計画策定にあたり市民アンケートを実施しているため、そういったものから拾い上げていければとも考えている。パブリックコメントの手続きを所管する部署に、いただいた意見は取り次ぎたい。

(委 員)

- ・全ての資料を出す必要があるという点はその通りだと思う。しかし市民にとって分かりやすいダイジェスト版を掲載するのも良いと考える。

(委 員)

- ・概要版の5.一日の中で私たちができる取組にリユースとあるが、リユースショップの利用やフリマアプリの利用等、個人的にはハードルが高いと感じている。私たち年配の世代にとってもわかりやすい、具体的な手法としてかみ砕いたものを記載いただきたい。

[事務局]

- ・リユースの取組については、民間事業者が行っている取組の補完という点で、周知が非常に重要と考えている。市独自でできる取組と合わせて、今後検討していきたい。

(委 員)

- ・市民の分別やごみ減量への意識を高めさせるためには、文言の使い方が重要である。自治会長として、ごみステーションはごみ捨てをする場所ではなく、ごみを回収する場所であると、徹底して言っている。概要版に水切りしてから「捨てる」とあるが、「出す」という記載で良いのではないか。

[事務局]

- ・概要版は、多くの市民の目に触れる重要な冊子となる。委員の皆様からいただいた意見を踏まえ、修正を検討していきたい。

(2) 諮問への答申について

(審議資料2)により事務局説明。

[事務局]

- ・年明け、陣内会長から市長に答申していただくスケジュールで手続きを進める。

(3) その他

(会 長)

- ・発言のなかった委員より、一言ずつ感想や意見等を述べていただきたい。

(委 員)

- ・ごみ減量推進員が毎年度行っている、ごみステーションの現状調査において、ごみ減量推進員が把握しているステーション番号と、こちらで管理しているステーション番号に齟齬が生じたことがある。

(委 員)

- ・ごみ減量推進員をしたことがあるが、調査の際に市からステーション番号の一覧表をもらうため、齟齬は生じないのではないか。

[事務局]

- ・ステーション番号は、収集運搬業務の関係で、市で一元管理している。ごみ減量推進員にリストは渡せても、著作権の関係でステーションの配置等を記載した地図を渡すことができないため、そこで齟齬が生じてしまう可能性がある。デジタル管理の導入を含め、対策について検討していきたい。

(委 員)

- ・製品プラスチックの取り扱いについて、今後どのようなようになるか教えていただきたい。

[事務局]

- ・厚崎地区でプラスチックの拠点回収・リサイクル実証を行っており、回収したプラスチックをリサイクルできるのか、環境に対する影響を抑えられるのか等含め、検討中の段階である。その結果次第では、事業継続や他地区への事業拡大等も念頭に置き、できるだけリサイクルを進める方針で、前向きに検討していきたいと考えている。

(委 員)

- ・早急に検討してぜひ、リサイクルを進めていただきたい。

(委 員)

- ・前回の審議会でも述べたが、集団資源回収を行っている地区は近年、雑紙等をしっかり分別して出していると感じる。一方、集団資源回収を行っていない地区は、リサイクルに対する認識が低いように感じる。各地域への意識調査や、しっかりとした普及啓発を行っていくことで、リサイクルが進むのではないかと考える。

	(委 員) ・ 概要版のごみ処理フローに関して、矢印のクロスが多いため、記載位置を調整しクロスを減らすことで、より分かりやすくなるのではないか。 (委 員) ・ 中長期的な計画となるため、地域活動の中でごみの減量化について、対話する機会を設けてはどうか。いろいろと協力をさせていただきたい。 (会 長) ・ ごみ減量を行うことは市民にとってはより良い生活に繋がり、事業者にとってはより良い事業活動に繋がる。今後も市民・企業・行政が協働で各種施策を進めていく必要があるため、地域のキーパーソンである委員の皆様には、ぜひ中心となって本計画を関係者に周知し、各種施策の推進にご協力をいただければと思う。 ※ その他、豚熱に関する養豚場における家畜処分の方法、環境影響等について意見あり。 《その他》 第2期那須塩原市一般廃棄物処理基本計画策定スケジュールについて (その他資料1)により事務局説明。 (質問なし) 市民生活部長より挨拶があった。 《開会》 事務局より閉会の挨拶があった。 以上
--	---